

BiocKシンポジウム

「再生医療最前線～関西から世界へ～」

2022年7月25日（月）

14:00-17:05

参加無料

ハイブリッド開催

会場：ライフサイエンスハブウエスト 4F A・B会議室 [先着50名]

大阪府中央区備後町4-1-3 御堂筋三井ビルディング4階

配信：zoom（ウェビナー）使用

➤ 開会挨拶 14:00-14:05 大阪大学大学院 医学系研究科 特任教授 澤 芳樹 氏

➤ バイオコミュニティ関西 (BiocK) について 14:05-14:17
バイオコミュニティ関西 (BiocK) 副委員長 兼 統括コーディネーター 坂田 恒昭 氏

➤ 挨拶 14:17-14:20 関西医薬品協会 理事長 國枝 卓 氏

➤ ご講演① 14:20-14:35

「iPS細胞を用いたパーキンソン病治療」

京都大学iPS細胞研究所 所長・教授 高橋 淳 氏

➤ ご講演② 14:35-14:50

「重症心不全に対する心筋再生医療」

大阪大学大学院医学系研究科 特任教授/大阪警察病院 院長 澤 芳樹 氏

➤ ご講演③ 14:50-15:05

「角膜再生医療の実現化に向けて」

大阪大学大学院医学系研究科 脳神経感覚器外科学講座(眼科学) 主任教授 西田 幸二 氏

➤ ご講演④ 15:05-15:20

「同種滑膜間葉系幹細胞を用いた軟骨再生 その実用化に向けて」

大阪保健医療大学 教授 大阪大学国際医工情報センター 招聘教授 中村 憲正 氏

— 15:20-15:25 休憩 —

➤ ご講演⑤ 15:25-15:40

「再生医療の普及を支援する再生医療ナショナルコンソーシアムの活動について」

大阪大学大学院医学系研究科・医学部附属病院

産学連携・クロスイノベーションイニシアティブ 特任准教授 岡田 潔 氏

➤ ご講演⑥ 15:40-15:55

「細胞製造の未来」

大阪大学大学院工学研究科生物工学専攻 教授

(兼) 工学研究科テクノアリーナ細胞製造コトづくり拠点 拠点長 紀ノ岡 正博 氏

➤ ご講演⑦ 15:55-16:10 [オンラインでの講演]

「住友ファーマの再生・細胞医薬事業の取組状況」

住友ファーマ株式会社 代表取締役 専務執行役員 木村 徹 氏

➤ ご講演⑧ 16:10-16:25 [オンラインでの講演]

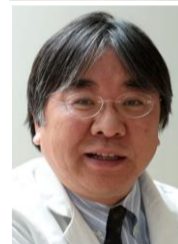
「網膜再生医療と医療側の準備」

株式会社ビジョンケア 代表取締役社長 高橋 政代 氏

➤ パネルディスカッション 16:25-16:55 モデレーター：澤 芳樹 氏/坂田 恒昭 氏

➤ 挨拶 16:55-17:00 一般社団法人ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン
事務局次長 高橋 俊一 氏

➤ 閉会挨拶 17:00-17:05 京都大学iPS細胞研究所 所長 高橋 淳 氏



「iPS細胞を用いたパーキンソン病治療」

我々は、2018年に「iPS細胞由来ドーパミン神経前駆細胞を用いたパーキンソン病治療に関する医師主導治験」を開始し、2021年末までに予定していた7例の患者さんの細胞移植手術を完了した。移植後2年間の観察で安全性と有効性を検証する予定にしている。本講演では、基礎研究から治験に至る過程、さらには将来展望について紹介する。

「重症心不全に対する心筋再生医療」

重症心不全に対して、心筋再生治療が、弱った心筋の機能を回復することができる新しい治療として期待されている。我々はiPS細胞由来の心筋細胞シート研究を進め、本細胞を用いた医師主導治療が開始された。この世界初の心筋再生治療法が確立されると、重症心不全で苦しむ世界中の患者を救うことができることが期待される。このような難治性疾患の克服には、未来医療を育んでいく社会の理解が重要である。

「角膜再生医療の実現化に向けて」

角膜再生医療の研究を進めており、体性幹細胞を用いた方法は実用化まで発展させた。更に、iPS細胞を用いた技術に取り組んでいる。2019年にiPS細胞から作製した角膜上皮細胞シート移植のFirst-in-human臨床研究を開始し、2022年に終了した。

「同種滑膜間葉系幹細胞を用いた軟骨再生 その実用化に向けて」

幹細胞の持つ組織修復能を利用した再生医療的軟骨治療法は世界的な注目を集めている。我々は、scaffoldを用いず滑膜間葉系幹細胞及び細胞自身の産生するマトリックスから構成された三次元人工組織(Tissue Engineered Construct: TEC)を用いた軟骨治療法を開発してきた。本法は阪大病院における厚労省ヒト幹細胞臨床研究を経て、現在第III相企業治験(RCT)に入り、実用化への最終段階に入っている。本講演ではこの軟骨治療法の基礎と臨床について概説したい。

「再生医療の普及を支援する再生医療ナショナルコンソーシアムの活動について」

日本再生医療学会は、日本医療研究開発機構の支援の下、再生医療等の臨床研究および医師主導治験等を支援する基盤を整備するため、学会内に事務局を設置し、再生医療等の専門的知識と経験を有し、国際水準の臨床研究等が実施、支援可能な医療機関や研究機関等協力しながら、再生医療ナショナルコンソーシアムと称したネットワークを構築してきた。今回、これらの再生医療ナショナルコンソーシアムの活動について説明し、議論を深めることで、コンソーシアムが目指す、「再生医療支援のためのエコシステム」のあるべき姿を検討したい。

「細胞製造の未来」

再生医療の普遍化を目指すうえで、多岐にわたるステークホルダーの連携のもと再生医療技術産業の広がりや技術深化が不可欠と考えられる。本講では、安心して安全、安定、安価なヒト細胞加工製品の創出を目指すうえで細胞製造の重要性と現状を示し、細胞製造コトづくり拠点の活動および将来展望について紹介する。

「住友ファーマの再生・細胞医薬事業の取組状況」

従来の薬とは全く違った機序による治療オプションを提供できるとして再生・細胞医薬に期待が集まっている。住友ファーマでは再生・細胞医薬分野を将来の事業の柱とすべく神戸や吹田に拠点を構えて取組を進めている。ここでは昨年度の先天性無胸腺症治療薬RETHYMICのFDA承認の取得など、弊社の再生・細胞医薬事業の取組状況を説明する。

「網膜再生医療と医療側の準備」

網膜の再生医療は臨床研究を重ね、網膜外層の疾患群に対する「治療」の準備が整いつつある。それを「医療」として成り立たせるためには、臨床側の患者選択の準備などが重要である。神戸を拠点として、新たな診療体制や新しい検査法を取り入れ、再生医療に適した効果判定を用意するなど準備を進めているのでご紹介する。

参加費 無 料 申 込 <https://kinkibio.com> 締 切 2022年7月22日(金)

主 催 バイオコミュニティ関西 (BiocK)
<https://bioc.k.jp/>

共 催 (予定) 関西医薬品協会／一般社団法人ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン (LINK-J) ／
公益財団法人京都大学iPS細胞研究財団 (CiRA_F) ／一般財団法人未来医療推進機構／公益財団法人神戸医療産業都市推進機構／
CBI学会CBI研究機構次世代モダリティ研究所／BiocK細胞製造分科会

後 援 国立大学法人京都大学iPS細胞研究所 (CiRA) ／大阪大学細胞製造コトづくり拠点

協 力 NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議／公益財団法人都市活力研究所



こちらからもお申込みいただけます

お問合せ：NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 担当：高田清文・大嶋真由子

〒541-0048 大阪市中央区瓦町4丁目8番4号 井門瓦町第2ビル3F
TEL：06-4963-2107 FAX：06-4963-2127 E-mail：moshima@kinkibio.com